

	ストーリー	子どもの活動	子どもの思い・願い
モジュール0		缶ビン資源化センター等への社会科見学、出前授業など (社会科)	自分たちだけの取り組みだけでは限界があるな…。たくさんの人に協力してもらったらいんじゃないかな!
モジュール1	秘密の指令 「ミュージアムジャック大作戦」	ミュージアム見学 ワクワクするきっかけ ・作戦会議、コードネーム、合言葉 (ゼロ・カーボン) …	おもしろそう! やってみたい! ★直感から動き出す。
モジュール2	偵察	ガイド内容の検討 (4時間) 各グループでの準備 (10時間) (他の活動への発展) 新聞づくり取材、グループでの新聞づくり (国語科) など	ジャックの目的は、たくさんの人に環境問題について伝えることだ! ★活動の中で、目的が明確に。活動も広がる。
モジュール3	逆偵察	ミュージアムスタッフ学校訪問、アドバイス (1時間) ガイド内容のブラッシュアップ	発表会じゃない。ガイドをするんだ! もっと分かりやすくするにはどうすればいいかな。 ★「自分」から「相手」へ、意識の変容
モジュール4	ミュージアムジャック	ジョブ体験: 仕事の役割を知る。やってみる。 エコ探究: 来場者へのガイド	本物の社会で全力を発揮! ★充実感をともなった学びが実現※

※充実感とは、「自分を理解してくれる人がいるという実感」、「友達とつながっているという実感」、「自分が成長しているという実感」、「夢中になれることがあるという実感」が統合された状態

ESDフォーラムからみえてきたミュージアムジャックのポイント

社会教育施設等との連携

ミュージアムジャックは、本物の社会の中で本物の人と関わって行うからこそ生まれる教育活動です。「等」とつけてあるのは、社会教育施設に限ったことではなく、子どもと関わるすべてのおとなが持続可能な社会の創り手の育成をともに考えていく必要があります。教育は変わろうとしています。また、地域のおとなも持続可能な社会の創り手として生きていくことがせまられています。

子どもたちは自らの課題に対し、自ら考えて行動を起こすことが求められており、地域のおとなも、教えるだけでなく、子どもの実態に応じて導いていくことが大切で、そのためには学校の先生と課題や方法を共有することが必要です。おとなも子どもと同じ地平に立って一緒に学んでいきましょう。

特別支援教育

ミュージアムジャックの考え方や方法は、特別支援学校での「生活単元学習」や「遊びの学習指導」で脈々と積み重ねてきた研究と一致しています。「主体的」ということは、具体的には「本気である」かつ「楽しい」ということであり、一人一人が自分のやり方で取り組んでおり、テーマもそれぞれにあります。そこで大切なことはみんなで向かう方向性、目的がきちんとしていて、そして、一人一人を尊重するクラスの雰囲気なのではないでしょうか。

幼児教育からの接続

共感し、学び、行動変容へつながっていく仕掛けは、発達段階に応じたものでなければいけません。おとなの願いやねらいを優先させるのではなく、子ども側からの「楽しさ」を考えること、また、子どもの声をよく聞き、とらえるセンスが子どもに接するおとなには求められています。具体的には、幼児期には小学校で扱う材 (地域の施設や地域の人など) に親しみをもつこと、繰り返し遊びに行くだけでも十分です。



ESDでは特に、共感、理解、行動に関する資質・能力を重視することでSDGsの前進に貢献し、教育が、個人の成功だけでなくグローバル・コミュニティの集団的な生存と繁栄に貢献するような将来を構築します。

文献: 持続可能な開発のための教育 ロードマップ: <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000384611>

ミュージアムジャックでは、子どもはそれぞれの興味や関心・方法でミッションにむかっていきます。その中で、共感、理解、行動に関する資質・能力を身につけていきます。

子どもにかかわるすべてのおとなが機関の垣根を越えて考えるための

カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック 2023

社会教育と学校教育の融合の必要性

2023年7月、国連のグレース事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、沸騰化の時代が訪れた」と発言されています。私たちは危機感をもたなくてはいけない時代になったということです。現行の学習指導要領前文には冒頭に「持続可能な社会の創り手の育成 (ESD)」が掲げられ、各教科にその理念が反映されています。また、「主体的・対話的で深い学び」というフレーズは、聞いたことのない教育関係者はいないでしょう。平易な言葉に置き換えてみると、一人一人が関心に基づいた課題に積極的に取り組み、多様な経験をもつ方、年代の方との対話を通して課題解決に向けて繰り返し学ぶことが重要だということです。

この背景には、将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちにつけてほしい資質・能力は、従前の教育内容・方法だけでは身につけていくことが難しくなっているという現実があります。そのため、学校は地域のさまざまな経験と知見を有する人や組織と互恵的な連携を図ることが必要となってきたのです。学習指導要領前文で述べられている「カリキュラム・マネジメント」、「地域に開かれた教育課程」、「学校種間の接続」は学校と地域の連携のアウトプットであり、ともに活動する中で、子どもだけでなく、おとなにも持続可能な社会の創り手としての価値観と行動の変容というアウトカムがもたらされます。

社会教育と学校教育の融合のためには、お互いが理解できる言葉で語り合うことが必要です。そのためのツールとしてこのシートを作成しました。考えを共有し、実態にあったオリジナルカリキュラムを両者で作り、実践をブラッシュアップしていきましょう。

「カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック2023」は以下の3点で構成されています。

本シート



<https://knotworklab.com/data/2041/>

ESDフォーラム
ミュージアムジャック2023
報告書



<https://knotworklab.com/data/2038/>

ビデオ「ミュージアムジャック」
(3分50秒)



<https://knotworklab.com/data/2039/>

「カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック2023」は、明治学園小学校で実践を、ESDフォーラム (2024年1月20日実施) での研究者や実践者とともに検討し作成しました。報告書・ビデオをご覧くださいと幸いです。

「ミュージアムジャック」(NPO法人里山を考える会考案) とは、明治学園小学校の4年生・93名が、タカミヤ環境ミュージアムのスタッフとして来館者をガイドする職場体験カリキュラムです。「ミュージアムジャック」の最大の特徴は、遊び心をくすぐり活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」(田宮, 2018) と、ガイドやスタッフといった職場体験を通して、子どもたちが身近な環境の成り立ちや私たちが直面するグローバルな現状を学ぶところにあります。

自発的な活動としての遊びは、成功するかどうかはわからない。見返りがあるかどうかはわからない。けど、おもしろいからやってみようという特徴があります。遊びだから、繰り返し試すことが可能で、経験に基づいた戦略を複数もつことができます。複雑な社会において最も必要とされる能力と思われます。遊びを通してより論理的で合理的な行動が可能となっていくことでしょう。

おとなのミッション：持続可能な社会の創り手の育成

子どものミッション：ミュージアムジャック

基本情報から記入してみましょう。

事前に共有しておいたほうがよいことをシンプルに示しました。

チェックリストとして活用することも可能です。

基本情報

学校名	社会教育施設、団体等の名称
所在地	所在地
教育理念・教育目標等	目的・使命等

対象となる子どもの実態

子ども、先生の課題意識からスタートするので、クラス単位での実践がより効果的であると思われます。

学年	クラス	人数
		名
子どもの実態	子どもの課題意識	

めざす子どもの姿(単元目標)

方向目標で書き、双方で共有しましょう。

地域の方々へ

学校の先生が子どもたちをよく見せようと張り切りすぎないように、チェックしてください。

やる気になれば、子どもたちは試行錯誤を繰り返し、ミュージアムジャックに向かっていきます。

極端な正確さや見栄えだけを求めると、リアルごっこ遊びの魅力が半減します。

次ページのミュージアムジャックのアウトラインや

報告書(「ミュージアムジャック概要」と「実践報告」スライド)を参考に、双方で考えてみましょう。

総合的な学習の時間を核としながら、他教科との連携も意識してください。

ミュージアムジャックの構想

	ストーリー	スケジュール	子どもの活動と思い・願い
モジュール0 身近な課題との出会い 学校 地域			
モジュール1 対象との出会い 「リアルごっこ遊び」に 巻き込む仕掛け 学校 地域			
モジュール2 調べてみる さまざまな方法(繰り返しの訪 問、図書館、インターネット、ヒ アリング…)で 学校 地域			
モジュール3 つくって、試してみる それぞれの得意なところから のガイディング 葛藤場面を設定することで より一層学びは深まります 学校 地域			
モジュール4 ミュージアムジャック 学校 地域			

